

六所神社のご祭神は
安産・子授けの神様
塩竈様です。



◆安産祈願は、

妊娠五ヶ月目以降の戌の日に祈禱を受け、
腹帯を着けるのが古くからの習わしです。

◆初宮参りは、

男の子三十一日目、女の子三十三日目以降に
ご誕生の感謝を捧げましょう。

◆七五三参りは、

男の子三歳、五歳、女の子三歳、七歳の時に、
ご成長の感謝を捧げましょう。
十月中旬〜十一月中受付しております。

◆その他、家内安全、厄除、交通安全など
各種ご祈禱も受付しております。

- 祈禱受付時間 午前九時〜午後四時まで（年中無休予約不要）
- 祈禱料 五〇〇円より

History of Rokusho Shrine

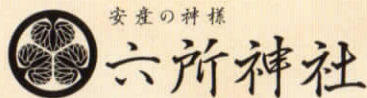
Rokusho Shrine is said to have first been built in the 7th century A.D. in the Tohoku area in Northern Honshu. It was moved to the present location in Okazaki in the 16th century A.D. by the warlord Chikauji Matsudaira who was the great-great grandfather of Ieyasu Tokugawa. From this point, the matsudaira family (which changed to the Tokugawa family) was quite pious in their worship of the gods enshrined there.

In 1542, when Ieyasu Tokugawa was born, he was brought to Rokusho Shrine in order to pray to the god, Ubusunagami, to ensure for his future success.

Ubusunagami is the god which protects and looks after Okazaki.

When Ieyasu Tokugawa became the first leader to unify all of Japan and founded the Tokugawa shogunate, he was able to lavish much money and supporting Rokusho Shrine. All the succeeding Tokugawa shoguns continued supporting Rokusho Shrine.

Rokusho Shrine has been designated as an important national treasure by the Japanese Government.

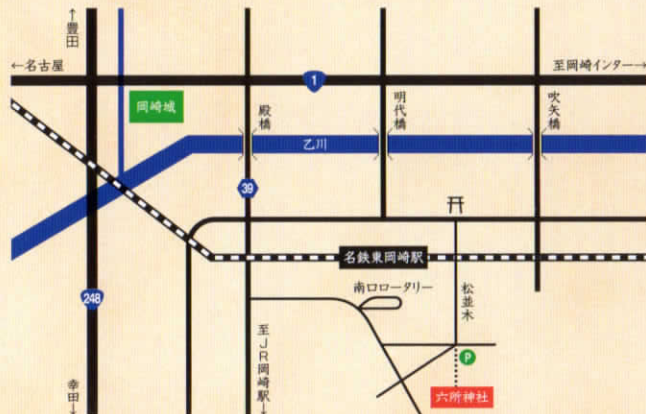


愛知県岡崎市明大寺町耳取44番地

電話 (0564)-51-2930
社務所：午前9時〜午後5時まで

www.rokushojinja.com

六所神社 検索



安産の神様 六所神社





御祭神

- ◆ 塩土老翁命 (安産の神様)
- ◆ 猿田彦命
- ◆ 衝立船戸命
- ◆ 太田命
- ◆ 興玉命
- ◆ 事勝国勝長狭命

他 十柱

由緒略記

人皇三十七代 宣明天皇の勅願により創立

六所神社は人皇三十七代宣明天皇の勅願により、奥州塩土六所大明神を勧請され、神領を「寄進のうえ創立された」と伝えられている。その後、人皇五十代桓武天皇の御代「田村磨將軍」が東夷征伐のため南下なさる折に「祈願、天皇に奏聞、勅許のうえ再建され「六所大明神」の勅願を下賜された。

降つて松平氏が三河入国以来、代々崇敬厚く天文十年(五四)十二月二十六日岡崎にて竹千代君(徳川家康公)ご誕生の折には産土神として「拝礼」なつた。慶長七年(六〇)には家康公より「朱印状を下され、石高「六十二石七斗」を贈られ、同九年(六〇)「社殿」造営の上、「神器」の品々をくだされた。

後に三代徳川家光も寛永十年(六三)四「上洛の折に岡崎城にて通拝され、御名代「松平伊豆守」を社参、百石を加増され

国指定

重要文化財

- 〔寛永十年(六三四年)〕
- ◆ 本殿 ◆ 幣殿
- ◆ 拝殿 ◆ 神供所
- ◆ 御厨子六基

〔貞享五年(二六八年)〕

- ◆ 楼門
- ◆ 棟札六枚

た。その朱印状には、「六所大明神は東照大権現降誕の地にある靈神なり、是を以て崇敬他と異なり。」とある。さらには家光公は同十年から十三年にかけて、御普請奉行「本多伊勢守」と神主「大竹大膳久次」により社殿および神供所を「造営された。この時の造営により本殿、幣殿、拝殿を連結し、華麗な彩色を施した権現造の社殿が完成した。これが現在重要文化財に指定されている社殿である。やや遅れて貞享五年(二六八)には楼門が建てられ、現在ではこれらの社殿と御神体を納める御厨子六基、社殿の棟札六枚と共に国の重要文化財に指定されている。

昭和五十一年、社殿建立以来最大規模の修復工事を行い、往時の御欄豪華な姿に再現された。さらに平成二十六年より三年をかけて平成の修復事業(屋根葺替・塗壁)を行い、再び当時の姿が蘇った。

年中行事

- ◆ 一月一日 元旦祭
- ◆ 一月中旬 古神札焼納祭(どんど祭)
- ◆ 二月三日 節分祭
- ◆ 三月十七日 祈年祭
- ◆ 五月十三日 春季大祭
- ◆ 六月三十日 大祓式(輪くくり神事)
- ◆ 十月 百曜月曜日 例祭
- ◆ 十月中旬、十月中 七五三祭
- ◆ 十一月二十三日 新嘗祭
- ◆ 十二月三十日 大祓式
- ◆ 毎月一日、十四日 月次祭



神供所